



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2011.5.26

No. 34-78

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

事務局

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

2011年IFALPA総会出席報告

2011年の4月、タイ北部のチェンマイにおいてIFALPA総会が開催されました。IFALPAの加盟団体であるALPA Japan（日乗連）からは、議長はじめ各委員長を中心とした計6名が参加しました。例年と比べて効率的に凝縮した日程に変更され、充実した総会が行われました。討議内容は世界各国、多岐に亘る内容ですので、ここではアジアや日本に関わる内容を中心に報告します。

ここで少しIFALPAについて説明しておきます。IFALPA=International Federation of Air Line Pilots' Associationsの意味で、世界各国のALPA組織の集まりです。現在は101加盟組合(4国)、10万人を超す組合員で組織されています。勿論、日乗連に加盟している各組合員は同時にIFALPAの組合員です。IFALPAはAAP委員会やAGE委員会の様なCommitteeと役員を含めたStaffで構成されており、諸外国の問題や事象に一丸となって取り組むと同時に、我々の運航に大きな影響を与えるICAO Annexを担当するICAOと良好なCommunicationを取ること、様々な側面から現場乗員の考えを反映させる役割を担っています。ALPA Japan（日乗連）のIFALPAにおける位置付けは、組合員数でIFALPA全体のTop 5に入るなど、アジア地域を担うリーダー的な国として大変重要な役割を担っています。(参照: <http://www.ifalpa.org/>)

IFALPAには、昨今の日本航空に関する事や羽田空港への取り組みなどで多大な協力を頂いている。PresidentのCapt Carlos Limonやアジア太平洋地区担当Capt Stu Julian、そしてIFALPA事務局のStaffには特に大きなサポートを頂いたので、日乗連から感謝の意を伝えました。

<Global Pilots' Symposium>

- ・ 昨年まではIFALPA総会前日に「Inter Alliance Meeting」「Industrial Seminar」として開催されていたが、Open SkyやJoint Ventureが世界的に広がっていることや、Allianceに加盟していない中東航空会社等が勢力を伸ばしていることを背景に、今年は勤務時間や疲労リスクも含めた大きな視点からのパネルディスカッション形式で開催となった。
- ・ Joint Ventureと言う同事業が大きく展開され始めており、世界中の収入バランスに変化が起こっている。これらに関してパイロットの集団としてどのように対峙していくべきか、今後の展望や危惧すべき内容などを含めパネルディスカッションを行った。
- ・ 航空産業における経済は世界的に成長傾向ではあるものの、日本の状況や燃料高騰によるリスクを抱えた状態は継続している。2011年度も燃料高騰に対する対策が1つのポイントであると考えられる。何故なら、**燃料高騰 → サーチャージ上昇 → 乗客減少**と負の連鎖を招く恐れがあるからである。
- ・ 日本の航空産業は、世界市場の約6.5%を担い、約10%の収入をもたらしており、昨今の状況が世界市場に及ぼす影響は小さくない。これに加え燃料高騰などの対策を、これ以上労働者への切り下げで対応するには無理があり、大変厳しい状況が強いられると予想される。
- ・ 過去20年、LCCなどに代表されるように航空産業の構造が変化してきた。同時に、実運航にPilotの意見が届きにくい構造になっている。しかしながら、このような状況下では、効率的にプロのPilotが会社の経営に参加し、運航のレベルを向上させるべきであると考えられる。



<Committee Meeting>・・・詳しくは適宜発行される各 Committee 出席報告書を参照ください

A/B Committee (Industrial, Human Performance, Legal, Security)

→ IND 関連では Globalization の進展により国境を越えた航空企業が出現し、乗員相互間の労働条件と権利を守るための政策が新たに起草され採択された。HUP 関連では CRM 等の資格認定に関わるドラフト政策が綱領へと格上げされた。SEC 関連ではレーザーアタックに関する政策綱領が新たに提起され採択された他、23 の政策が変更または綱領への格上げが提案され採択された。

C Committee (Accident Analysis & Prevention, Aerodrome & Ground Environment, Aircraft Design & Operation, Dangerous Goods, Helicopters)

→ IFALPA Policy の再確認や、文章校正などであり、各 Committee での議論を超える内容はなかった。

D Committee (Air Traffic Services, Regional Matters)

→ 2010 年度に開催された 2 回の ATS Committee で確認された 1 つの新規提案、1 つの再確認、5 つの IFALPA Policy 見直しについて総会に提出され全て可決された

E Committee (Administration & Finance Matters)

→ IFALPA も世界的な経済の落ち込みの影響を受けて財政は逼迫している。今総会で行われた日程短縮など、今後も効率的な運営を行う方針。諸経費なども精査していく。

総会中の夕食会では、毎年、世界の航空業界での活躍された乗員が表彰されます。今年度は皆さんご存知の、カンタス航空 A380 が離陸直後にエンジントラブルで引き返し、大勢の尊い命を救った乗員が表彰されました(日乗連ニュース 34-39~34-43 参照)。当該乗員は、多発機の安全性や、適切な安全管理の下でしっかりと訓練を行っておくことが重要である、そして、全ての仲間が協力したお陰で最悪の事態を免れることができたと言った。

<Regional Meeting, Safety Seminar>

・今総会まで 2 期 4 年間 IFALPA の北太平洋地区代表を務めた石山機長は残念ながら訓練の関係で出席できなかったが、RVP Report では JAL 解雇問題や Manila FIR での CPDLC 試行開始、福岡 FIR 内での TCAS 修理持ち越し問題、JAL907 便ニアミス裁判の報告を行った。それに加えて ALPA Japan から、東日本大震災に対する多くの各国からのサポートに感謝の意を伝え、続いて日本航空問題、羽田空港の近況などを伝えました。また、引き続き外国社が羽田空港に運航して感じた事などを Feedback してもらうようお願いした。そして、最後には日乗連議長から JAL の整理解雇問題に関する IFALPA Statement の発行に協力をお願いし、今総会での採択される運びになった。

・アジア地域でもリーマンショックからの回復が順調に進んでいるようで、自国の経済の発展と共に前年比大幅な増収増益となったエアラインが多数あった。特に LCC の発展がめざましく、既存の大手エアラインのみが就航していた幹線にも就航し始めるなど目が離せない状況となっている。またニュージーランド、日本と連続発生した自然災害に対し、お見舞いの意を表明する加盟組合も多かった。

(参考：羽田に関する IFALPA Safety Bulletin は HP からご覧いただけます。)

・ Safety Seminar では以下のような内容が取り上げられた。

ITQI (IATA Training & Qualification Initiative) ・ EBT (Evidence Based on Training)

→ 操縦室はグラスコックピットへと進化している一方、Pilot 養成訓練用件は古いままであり、更に用件では訓練科目だけが指定され、時間の制約がないのが現状。より現状の機材に則した訓練体系を作る取り組みである。最初の Evaluation は 2012 年 1 月に開始される予定。

MPL (詳しくは Human Performance 委員会の Newsなどを参考にしてください)

→ 再度、MPL についてのプレゼンテーションが行われ、MPL は決して短い・安上がりな・簡単な訓練体系ではないことを強調した。

IPTS (IFALPA Pilot Training Standard)

→ 詳しくは 2012 年の総会で発表されるが、今後の需要の増大を予測すると当然 Pilot の養成が必要かつ膨大になっていく。訓練体系が新しくなったり、再考される場合には我々現場の Pilot の意見やプロの見解が反映されるべきである。今後も Workshop などを通じて取り組んでいく内容である。

・最後に、IFALPA から今後も IFALPA の主催する様々な Training Program を活用し、Committee にも積極的に参加して活動を盛り上げて欲しいとコメントがありました。

<役員交代・今後の日程など>

President 前 Capt Carlos Limon (メキシコ) → 新 Capt Don Wykoff (アメリカ)
Deputy President 前 Capt Don Wykoff (アメリカ) → 新 Capt Rene de Groot (オランダ)
Executive Vice President (EVP)Asia/Pacific 前 Capt Stu Julian (ニュージーランド) → 新 Capt Korn (タイ)
Regional Vice President (RVP) North Pacific 前 Capt 石山 (JAL) → 新 Capt 吉村 (ANA)

次回の Regional Meeting は 10 月 5 日～7 日にメルボルンで行われる予定。

次回の総会は 2012 年 5 月 4 日～7 日にパリで行われる予定。

この度、長くご尽力された石山機長の退任に伴い、日乗連の議長代行でもある吉村機長が RVP に就任しました。また新しい President、Deputy President が選出されたことから早速 ALPA Japan として祝福メールを送り、今後も継続した取組みを協力して貰える体制が整っています。

最後に、DG (Dangerous Goods) 委員会の取組みを紹介します。前記したように IFALPA には多くの Committee があり、それぞれの Committee において世界中の Pilot が熱く議論を重ねています。その中でも DG 委員会は、IFALPA と ICAO の協力関係が最も密接になっている委員会であることを紹介します。



機内に搭載されている Red Book

上の写真は皆さんご存知の、Red Book と呼ばれる機内搭載の Emergency Response Guidance です。2年に1度更新され、最近 2011 年—2012 年版に更新されています。この Red Book の右上には、今バージョンより IFALPA のロゴも載せられるようになりました。DG 委員会はこうしたことから、最も ICAO との関係で進んだ委員会であると言えます。我々 ALPA Japan そして IFALPA の活動は、ICAO などの政府機関と密接に関係しており、同時に我々の日常運航にも広く影響しています。

以上